

2025年保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公

事業所名 湘南国際アフタースクール野比

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11	1				
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	10	1				
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	3		2		建物の構造上バリアフリー化は難しいですが、配慮は検討していきます。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	10	2				
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	10	2				
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	4		4		現状は難しいのですが、検討していきます。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12					
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12					
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10	2				
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6	3	2	1		保護者の方々の日程調整が難しいところですが、検討していきます。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9	3				
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10			2		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか		6		6		ホームページ等の周知に努めていく
	14	個人情報に十分注意しているか	12					
非常 時等	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	8	4				

対応	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12					
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	10	2				
	18	事業所の支援に満足しているか	10	1	1		ゲーム感覚で学べるものを希望します	職員ミーティング時に検討していきます

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

2025年放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

事業所名： 湘南国際アフタースクール野比

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			毎日のミーティングで打ち合わせを行っている	
	2	職員の配置数は適切である	5			基準よりも多い配置を行っている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		3	2		賃貸物件のため難しい部分がある
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5			毎日のミーティングで話し合いを行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			外部の研修に参加している	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			毎日のミーティングで行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	3		職員が個別に検討している	職員ミーティングの活用方法を改善していく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	2		毎日のミーティングで行っている	ミーティングでの話し合いを細かく行っていく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	2		個別のプログラムを組んでいる	小学生が少ないため、それぞれの用事があるため思うように集団活動が出来ない時もあるが、予定を早めに把握するなど対処していく
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3			スタッフそれぞれで事情があり、全員で出来ないときもあるが、Zoomなどを利用していくことを検討している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	2			職員間でガイドラインの理解を深めるミーティングを行う	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		5		基本的に管理者と児童発達管理責任者が参加している	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている		2	3	必要な時には、必ず連絡を取り合っている。	連絡を取り合っていることを周知徹底していく

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			5	現在、医療的ケアが必要な子どもは受け入れない体制である	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		1	4	新小学1年生となる子が入る時には、情報共有している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5			学校の卒業後に障害福祉サービス事業所へ移行した子どもたちは今までにいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		5		都度、相談をしたり、助言を受けている	職員に相談や助言を受けたことを周知徹底していく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	4		今後は、上手く連絡をとる努力をしていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4		協議会が開催されるときは積極的に参加している	職員に参加したことを周知徹底していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3		機会があるごとに、保護者との話し合いを行っている	保護者とのやり取り等を職員に周知徹底していく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5			保護者の方々の予定が上手く合わず開催出来ないの、少数でも可能なものの開催を検討する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		4	1		頻繁ではなくとも事業所でのことを保護者に伝えていく努力をしていく
	35	個人情報に十分注意している	5				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			5		教室の広さ、安全性なども考慮していかないとできない難しいものだが、努力していく
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5				
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5				
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2		保護者の方々への説明は契約の際に行っている	職員へは機会があることにミーティングで伝えていく。保護者の方々へはモニタリング時に行うようにしていく
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1		アレルギーは、事前に保護者の方々に伺うようにしている	
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2			ミーティングで取り上げる機会を現在よりも多くしていく

職員による自己評価

A環境面

支援のための環境は十分に整っている

B児童への支援内容

一人ひとりの特性に合わせた内容の支援を行っている

C関係機関との連携

保護者からの要望や事業所で必要と考えた場合には関係機関と日程調節をして連携をしている

D保護者への説明責任・信頼関係

契約時の際の説明や、定期的な面談時に情報共有を行っている

E非常対応

マニュアル等を作成し、保護者には契約時に渡し、説明を行っている

保護者による評価

A環境面

特に問題点はないと感じて頂いている

B児童への支援内容

支援内容については、都度事に保護者と話し合いを行って適切な支援内容になるように努めている

C事業所からの情報発信

HPを作成しているが認知度があまり高くないため、共有を図っていく

D非常対応

年に数回、一斉に避難訓練と消防訓練を行っている

事業所内での分析

【共通点】

環境面、支援内容については概ね満足して頂けている
事業所からの説明等に関しても概ね満足して頂けている

【相違点】

事業所からの情報発信において、保護者の認知度が上がらないため周知を行って行く必要がある

分析・検討してみて…

事業所の強み

支援内容や環境面については概ね満足をして頂けていて、保護者や児童との信頼関係も構築されてきていると認識している。

保護者の方々との面談も随時行って、意思疎通は図れている。

今後は、今までの支援内容などを検証し、より良い支援を行えるように職員と話し合い工夫を続けていきたい。

事業所の改善点

情報発信(HPなど)の点において、必要な情報を保護者の方からも聞き取りを行って工夫をしていきたい。

自分で通所をしている子どもたちの保護者とは、情報の共有をする場面が限られてきてしまうので工夫していく。

事業所の改善への取り組み

情報発信のためのHPに関しては、保護者とLINEを交換させて頂いているので、上手く活用して周知をしていき、又その内容などについてもご意見を伺わせて頂き改善していけるようにしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者の方々の意見を参考にしながら事業所内で協議して改善案を協議していく。

課題となっていない部分についても、より良い支援が出来るように毎日のミーティングを上手く活用して工夫できるところは工夫していく。

事業所名 湘南国際アフタースクール野比

担当者 鈴木 雄大